

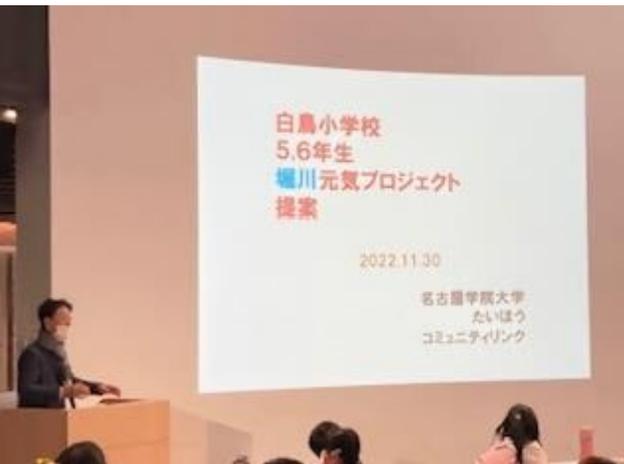
白鳥小学校総合的な学習 「堀川元気プロジェクト」

白鳥小学校の5・6年生は、今年、「未来のわたしたち、あつた人（びと）になろう！」という総合的な学習に取り組んでいます。

子どもたちは、「食」「伝統文化」「まちづくり」「自然」の4つのテーマに分かれてそれぞれ取り組んでいます。今回「自然」をテーマとする子どもたち34名に、名古屋学院大学と合同で、堀川をテーマにした授業をするということで、見学してきました。

題して「堀川元気プロジェクト」。ファシリテーターは現代社会学部の井澤教授です。

子どもたちは、小学校から名古屋学院大学のキャンパスへ移動しながら、個々のタブレットで撮影をしました。撮影したデータは、このあとのグループワークで使用します。白鳥庭園や、白鳥公園、熱田記念橋から堀川など、子供たちは思い思いに撮影します。



短い時間でしたが、タブレットを使った写真撮影も手慣れたもので、どんどん撮っていきます。

こうして名古屋学院大学たいほうキャンパスに到着しました。



名古屋学院大学国際センターのコミュニティ・リンクが教室になります。いつもの教室とは違い、吹き抜けのある開放的な円形のスペースは、子供たちのあこがれのキャンパスになったのではないのでしょうか。

ここで初めて井澤先生から今日の課題が出されました。「どうしたら堀川を知ってもらい楽しんでもらえるのかを撮ってきた写真を参考にしながら、アイデアを出し合ひましょう」



井澤先生からは、いくつかヒントが出されたものの、グループワークに使える時間は15分。ここで大人なら「えー短かすぎる」と声をあげてしまうところですが、子どもたちは違いました。

グループごとに、撮影してきた写真やインターネットで調べた事例などのデータをタブレットで共有しながら、さくさくと発表用の資料を作成していきます。下の写真にあるような「クラゲチャート」といった思考ツールも使うとはびっくり。この子たちが、アナログな区役所の会議を見たら、逆にびっくりされそうですね。

さて、発表です。

子どもたちの考えたプロジェクトは、子どもも大人も参加する堀川写生大会。堀川の近くに椅子を並べて落ち着けるところにする。桜の木を増やしたり、冬はクリスマスツリーを立てるなどの映えスポットをつくる。顔出し看板をつくる。堀川スタンプラリーをやって景品ゲットなど。聞いているだけで楽しそうです。でも、スタンプラリーの景品は何がいい？と井澤先生が聞くと、スーパーの割引券やアマゾンギフト券など、意外に堅実な回答でした。

こうした1年間の取り組みを通じて、熱田に愛着を持ってもらい、未来の「あつた人（びと）」に育っていってくれるのは、とてもうれしいです。